

第3章

戦略における将来像・目標

- 1 目指すべき方向性
- 2 各主体の位置付け
- 3 2050年将来像と2030年目標
- 4 地区別の2050年将来像

第3章の色 —あやめ 菖蒲色—

アヤメの花の色に由来し、着物や和装小物に使われ、落ち着きと品格を演出する色として知られています。◆表紙の生きもの —サザンカー— (江東区の花)

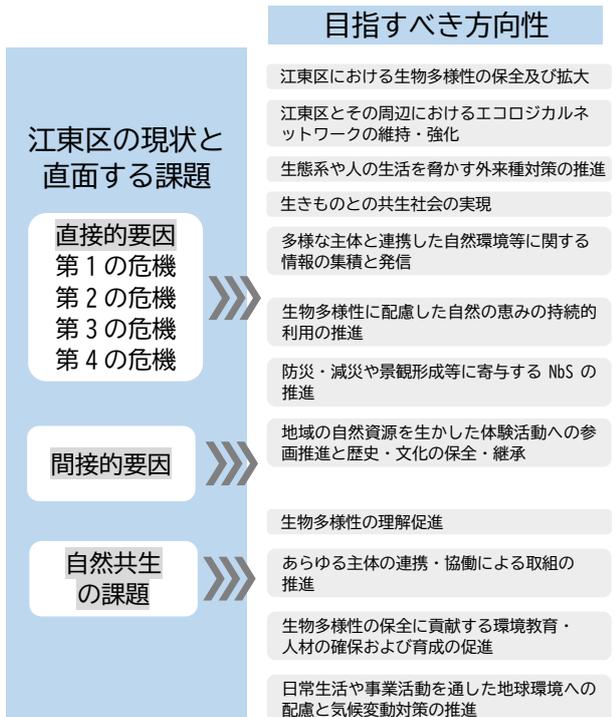
第3章の概要

1 目指すべき方向性 p.97

3 2050年将来像と2030年目標 p.100

2050年将来像（長期）

水と緑、過去と未来、生きものと人がつながる持続的な自然共生社会



2030年目標（短期）

基本目標Ⅰ 守り、育てる

生物多様性のつながりや魅力を守り、生きものと人が共生しながら、江東区のかげがえのない水と緑のまちを育てる

基本目標Ⅱ 活かし、つなぐ

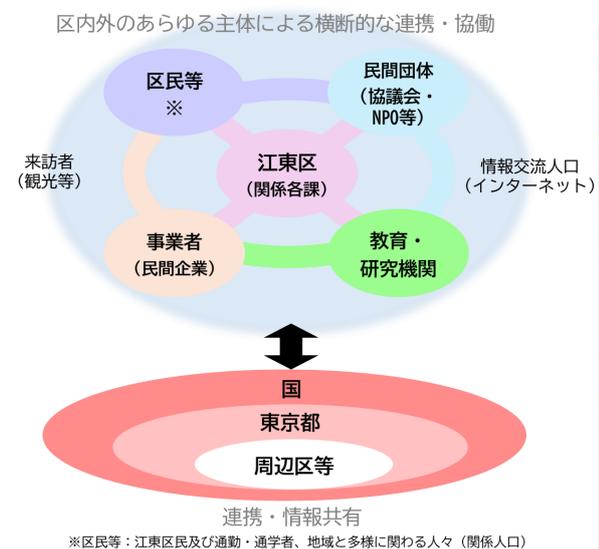
生物多様性の恵みや自然の働きを大切に活かし、江東区の歴史と文化を未来につなぐ

基本目標Ⅲ 知って、変わる

生物多様性の価値や大切さを知って、こどもから大人まで協力しながら、地球環境に配慮する行動に変わる

2 各主体の位置づけ p.99

江東区、区民等、民間団体、事業者、教育・研究機関を主な取組主体として位置付け、国や都、周辺区等との横断的な連携・協働・情報共有により、実効性の高い取組を目指します。



4 地区別の2050年将来像 p.104

調査・分析結果から、【生きものと人がつながる生物多様性5大エリア】を選定し、そのエリアを中心に2050年将来像の実現を目指します。



- ① 横十間川親水公園 / 仙台堀川公園エリア
・横十間川親水公園
ポケットエコスペース 等
- ② 荒川・砂町水辺公園
河口エリア
・新砂干潟、荒川河口等
- ③ 富岡神社仏閣 / 企業緑地エリア
・越中島公園ビオトープ、
企業緑地、隅田川河口 等
- ④ 猿江恩賜公園エリア
- ⑤ 若洲海浜公園 / 若洲公園エリア

第3章 戦略における将来像・目標

第3章では、2050年（令和32年）の自然共生社会の実現に向けて、長期的な将来像及び短期的な2030年目標、地区別の現状・課題と2050年将来像を示します。

また、これを受けて2030年目標の達成に向けた具体的な施策の内容を第4章に掲載しています。

1 目指すべき方向性

江東区の生態系、生物多様性及び保全活動の現状を分析することでいくつかの課題が見えてきました。これらの課題の解決に向けた目指すべき方向性を表3-1に示します。

表 3-1 江東区における課題と解決に向けた目指すべき方向性（1/2）

課題	解決に向けた目指すべき方向性
第1の危機（開発等人間活動による影響）	
・ 生息・生育できる水辺や緑地、干潟の不足	江東区における生物多様性の保全及び拡大
・ 希少な生きものの生息・生育地の不足	
・ シンボルとなる生きものを保全していく視点の不足	
・ 樹林地や草地のエリアごとの偏り	
・ 水質等今ある環境の質の低下	
・ 南部や湾岸エリアでのポケットエコスペースの不足	
・ 都立猿江恩賜公園～仙台堀川公園、汐浜運河～辰巳の森公園のつながり不足	江東区とその周辺におけるエコロジカルネットワークの維持・強化
・ 湾岸エリア、荒川河川敷以外の草地のつながりの不足	
・ エコトーン不足	
・ 自然の恵みを楽しむ文化やその利用を受け継いでいく環境の不足	地域の自然資源を生かした体験活動への参画推進と歴史・文化の保全・継承
・ 区民農園利用者の生態系に配慮した利用の認知不足	生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進
・ 生活排水で河川が汚れることへの理解の不足	日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進
・ 都市・住宅地での人々の生きものの認識不足	生きものとの共生社会の実現
第2の危機（自然に対する働きかけの縮小による影響）	
・ 活動の担い手の不足	生物多様性の保全に貢献する環境教育・人材の確保及び育成の促進
・ 管理の質の低下	
・ 生きもの触れ合い体験の不足	
・ 現地調査の不足	多様な主体と連携した自然環境等に関する情報の集積と発信
・ 情報の集約化の不足	
・ 情報発信拠点の不足	
・ 事業者が取組の理解を得る仕組みの不足	あらゆる主体の連携・協働による取組の推進
・ 生物多様性の認知度の不足	生物多様性の理解促進

表 3-1 江東区における課題と解決に向けた目指すべき方向性 (2/2)

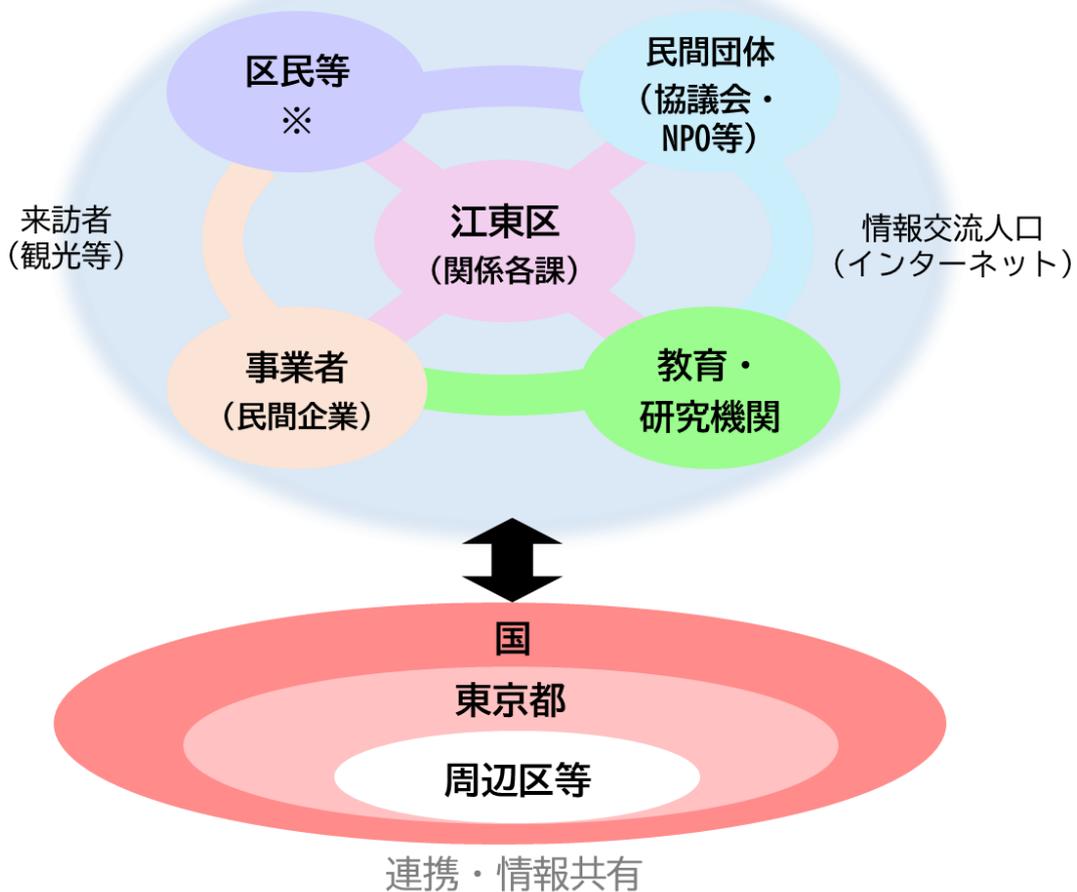
課題	解決に向けた目指すべき方向性
第3の危機（人間により持ち込まれたものによる影響）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来生物の管理の不足 ・ ペットや園芸種の逸出管理の不足 	生態系や人の生活を脅かす外来種対策の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ ペットや園芸種の逸出によるリスクの理解不足 	生物多様性の理解促進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒川上流地域や近隣区への呼びかけの不足 	あらゆる主体の連携・協働による取組の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック廃棄物の河川や海への流出 	日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の意識改革の不足 	
第4の危機（地球環境の変化による影響）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 更なる再エネ・省エネ化 	日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 更なる行動変容の促進、意識啓発 	日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 区民、事業者との連携の不足 	あらゆる主体の連携・協働による取組の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 豪雨災害へのリスク 	防災・減災や景観形成に寄与するNbSの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気汚染物質等の排出防止対策の不足 	日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進
間接的な要因による影響	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 間接的な影響の認識不足 	生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の行動、意識の改革の遅れ 	生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進
自然共生の課題（生態系ディスサービス）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活環境に影響を及ぼしている生きものの対策 ・ 被害対策窓口の周知 	生きものとの共生社会の実現

2 各主体の位置付け

本戦略は、江東区の関係各課及び江東区に關係する各主体が横断的に連携・協働することで推進されます。ここでは、江東区（関係各課）、区民等（江東区民をはじめ通勤・通学者、地域に関わる人々）、民間団体（協議会・NPO等）、事業者、教育・研究機関を主な取組主体として位置付けます（図 3-1）。また、これらの主体は、国（国土交通省、環境省等）や東京都、周辺区等の取組と連携及び情報共有を行うことでより実効性の高い取組を目指します。

更に、江東区に訪れる来訪者（観光等）やインターネットを介して交流する人々といった区外の情報交流人口とも情報共有や体験活動等を通じた連携・協働を求めていきます。

区内外のあらゆる主体による横断的な連携・協働



※区民等：江東区民及び通勤・通学者、地域と多様に関わる人々（関係人口）

図 3-1 取組主体の関係

3 2050年将来像と2030年目標

本戦略では、2050年（令和32年）の自然共生社会の実現に向けて江東区が有している立地、資源、生きもの、取組を最大限に活かすことのできる将来像を設定します。

また、2050年（令和32年）の将来像の実現を見据えたネイチャーポジティブの実現に向けて江東区の現状と目指すべき方向性及びそれを踏まえた2030年（令和12年）までに達成する3つの基本目標を次のとおり掲げます。

2050年将来像（長期）

水と緑、過去と未来、生きもの人とつながる持続的な自然共生社会

江東区の現状の課題

第1の危機（開発等人間活動による影響）の課題	
・ 生息・生育できる水辺や緑地、干潟の不足	P45
・ 希少な生きものや生息・生育地の不足	P47
・ シンボルとなる生きものを保全していく視点の不足	P47
・ 樹林地や草地のエリアごとの偏り	P53
・ 水質等今ある環境の質の低下	P53
・ 南部や湾岸エリアでのPESの不足	P58
・ 都立猿江恩賜公園～仙台東川公園、汐浜運河～辰巳の森公園のつながり不足	P58
・ 湾岸エリア、荒川河川敷以外の草地のつながりの不足	P58
・ エコトーン不足	P58
・ 自然の恵みを楽しむ文化やその利用を受け継いでいく環境の不足	P51
・ 区民農園利用者の生態系に配慮した利用の認知不足	P51
・ 生活排水で河川が汚れることへの理解の不足	P53
・ 都市・住宅地での人々の生きものへの認知不足	P58
第2の危機（自然に対する働きかけの縮小による影響）の課題	
・ 活動の担い手の不足	P74
・ 管理の質の低下	P74
・ 生きもの触れ合い体験の不足	P81
・ 現地調査の不足	P45
・ 情報の集約化の不足	P74
・ 情報発信拠点の不足	P74
・ 事業者が取組の理解を得る仕組みの不足	P77
・ 生物多様性の認知不足	P81
第3の危機（人により持ち込まれたものによる影響）の課題	
・ 外来生物の管理の不足	P83
・ ペットや園芸種の逸出管理の不足	P86
・ ペットや園芸種の逸出によるリスクの理解不足	P86
・ 荒川上流地域や近隣区への呼びかけの不足	P83
・ プラスチック廃棄物の河川や海への流出	P87
・ 一人一人の意識改革の不足	P87
第4の危機（地球環境の変化による影響）の課題	
・ 更なる再エネ・省エネ化	P88
・ 更なる行動変容の促進、意識啓発	P89
・ 区民、事業者との連携の不足	P89
・ 豪雨災害へのリスク	P90
・ 大気汚染物質等の排出防止対策の不足	P90
間接的な要因による影響の課題	
・ 間接的な影響の認知不足	P91
・ 人々の行動、意識の改革の遅れ	P92
自然共生の課題（生態系サービス）の課題	
・ 生活環境に影響を及ぼしている生きものへの対策	P94
・ 被害対策窓口の周知	P94

目指すべき方向性

江東区における生物多様性の保全及び拡大 ⇒ ポケットエコスペース等	P142
江東区とその周辺におけるエコロジカルネットワークの維持・強化 ⇒ 荒川、隅田川、東京湾、5つの生態系タイプ	P146
生態系や人の生活を脅かす外来種対策の推進 ⇒ ヒアリ、アライグマ等	P150
生きものとの共生社会の実現 ⇒ ウミネコ、サギ類等	P153
多様な主体と連携した自然環境等に関する情報の集積と発信 ⇒ 区民、民間団体、事業者、教育・研究機関、国・都等	P156
生物多様性に配慮した自然の恵みの持続的利用の推進 ⇒ 深川めし、江戸東京野菜、国産の木材等	P159
防災・減災や景観形成等に寄与するNbSの推進 ⇒ 雨庭、壁面緑化、親水公園、保護樹木・樹林等	P162
地域の自然資源を生かした体験活動への参画推進と歴史・文化の保全・継承 ⇒ 自然観察、花見、農園、ガーデン、富岡八幡宮等	P165
生物多様性の理解促進 ⇒ 認知度約40%等	P169
あらゆる主体の連携・協働による取組の推進 ⇒ 生物多様性フェア、環境フェア、企業研究会等	P172
生物多様性の保全に貢献する環境教育・人材の確保及び育成の促進 ⇒ ポケットエコスペースの学校教育、田んぼの学校等	P175
日常生活や事業活動を通じた地球環境への配慮と気候変動対策の推進 ⇒ 洲公園ゼロカーボンパーク、食べきり協力店等	P178



2030年目標（短期）

基本目標 I 守り、育てる

生物多様性のつながりや魅力を守り、生きものと人が共生しながら、江東区のかげがえのない水と緑のまちを育てる

基本目標 II 活かし、つなぐ

生物多様性の恵みや自然の働きを大切に活かし、江東区の歴史と文化を未来につなぐ

基本目標 III 知って、変わる

生物多様性の価値や大切さを知って、こどもから大人まで協力しながら、地球環境に配慮する行動に変わる

2050年江東区の将来像
水と緑、過去と未来、
生きものと人がつながる
持続的な自然共生社会



- 生きものと人がつながる生物多様性
5大エリア
- ①横十間川親水公園／仙台堀川公園エリア
 - ②荒川・砂町水辺公園河口エリア
 - ③富岡神社仏閣／企業緑地エリア
 - ④猿江恩賜公園エリア
 - ⑤若洲海浜公園／若洲公園エリア

図 3-2 自然共生社会の実現に向けた 江東区の 2050 年将来像 (イメージ)

イラスト/橋本一恵 (株式会社建設技術研究所)

4 地区別の2050年将来像

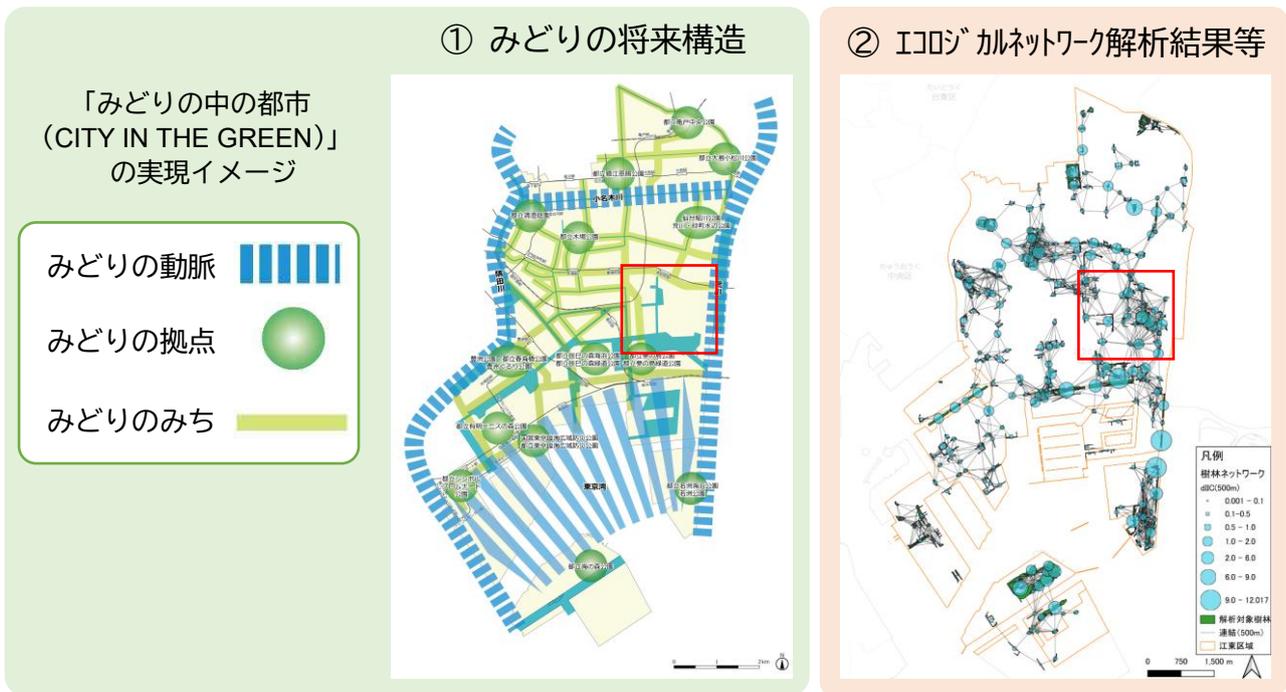
(1) みどり・生きものの将来構造

本戦略の関連計画である「江東区みどりの基本計画（後期）（令和7年3月）」では、「みどりの中の都市（CITY IN THE GREEN）の実現」に向けて、「みどりの将来構造」が示されており、みどりの充実を目指した「動脈」、「拠点」、「みち」が設定されています。

本戦略では、この「みどりの将来構造」に対して、生きものの視点である「エコロジカルネットワーク」の解析結果や生きものの生息・生育地、生物多様性の保全・利用・普及啓発の取組に関する情報を重ね合わせることで、生物多様性の観点から重要となる「エリア」や「みち」、「スポット」を新たに設定しました（表 3-2、図 3-3、表 3-3）。

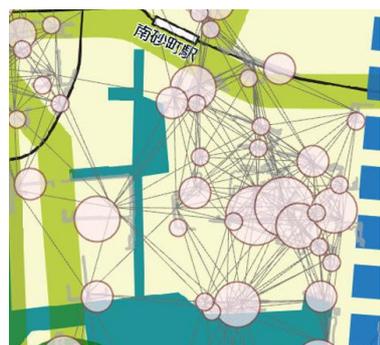
これより、今ある江東区の自然環境を維持しつつ、より強固に保全し、生物多様性に配慮しながら利用していくことを目指した「みどり・生きものの将来構造」として新たに示します。

更に、計22か所の「みどり・生きもののエリア」から、江東区を代表する特徴的な環境や活動している団体の有無、今ある取組の将来的な発展の可能性を踏まえて、【生きものと人がつながる生物多様性5大エリア】を選定しました（表 3-4）。



- ①みどりの将来構造と
②エコロジカルネットワーク解析結果等の重ね合わせ

- ①みどりの将来構造では示されていないが、生物多様性の観点から重要となる新たなエリアやみち、スポットの設定



新たに設定した
エリア・みちの例
(水色：荒川・砂町水辺公園
河口エリア)



表 3-2 みどり・生きものの将来構造における区分とその考え方

みどり・生きものの将来構造	設定の考え方	「みどりの将来構造」※1 における設定（踏襲）	本戦略における 新たな設定
みどり・生きものの動脈	広域的な環境を支える海や河川、及び区の骨格を形成している河川	東京湾、荒川、隅田川、小名木川	(追加なし)
みどり・生きもののエリア	みどりの多様な機能を発揮し、地域の中心となる公園緑地（既設）や、生物多様性の観点から重要となる多様な水辺・緑地（新設）のエリア	既設エリア※2 14 か所（都立・区立公園）	新設エリア 8 か所（多様な水辺・緑地を有する地域）
	生物多様性 5大エリア	(設定なし)	5 エリア
みどり・生きもののみち	みどり・生きものの動脈やエリア、スポットをつなぐ河川・運河、親水公園、幹線道路、緑道等の水辺・緑地のつながり	網羅的に設定	新設 9 本
みどり・生きものスポット	みどり・生きもののエリア内外に関わらず、小さな空間（スポット的な環境）を含めて、生きものの生息・生育地や特徴的な利用が行われている場所	(設定なし)	【保全】ポケットエコスペース、江戸東京野菜栽培地等 【利用】コミュニティガーデン、区民農園、田んぼ等

※1 「江東区みどりの基本計画（後期）」（令和 7（2025）年 3 月）にて設定

※2 「江東区みどりの基本計画（後期）」（令和 7（2025）年 3 月）では、「拠点」と表現

第1章

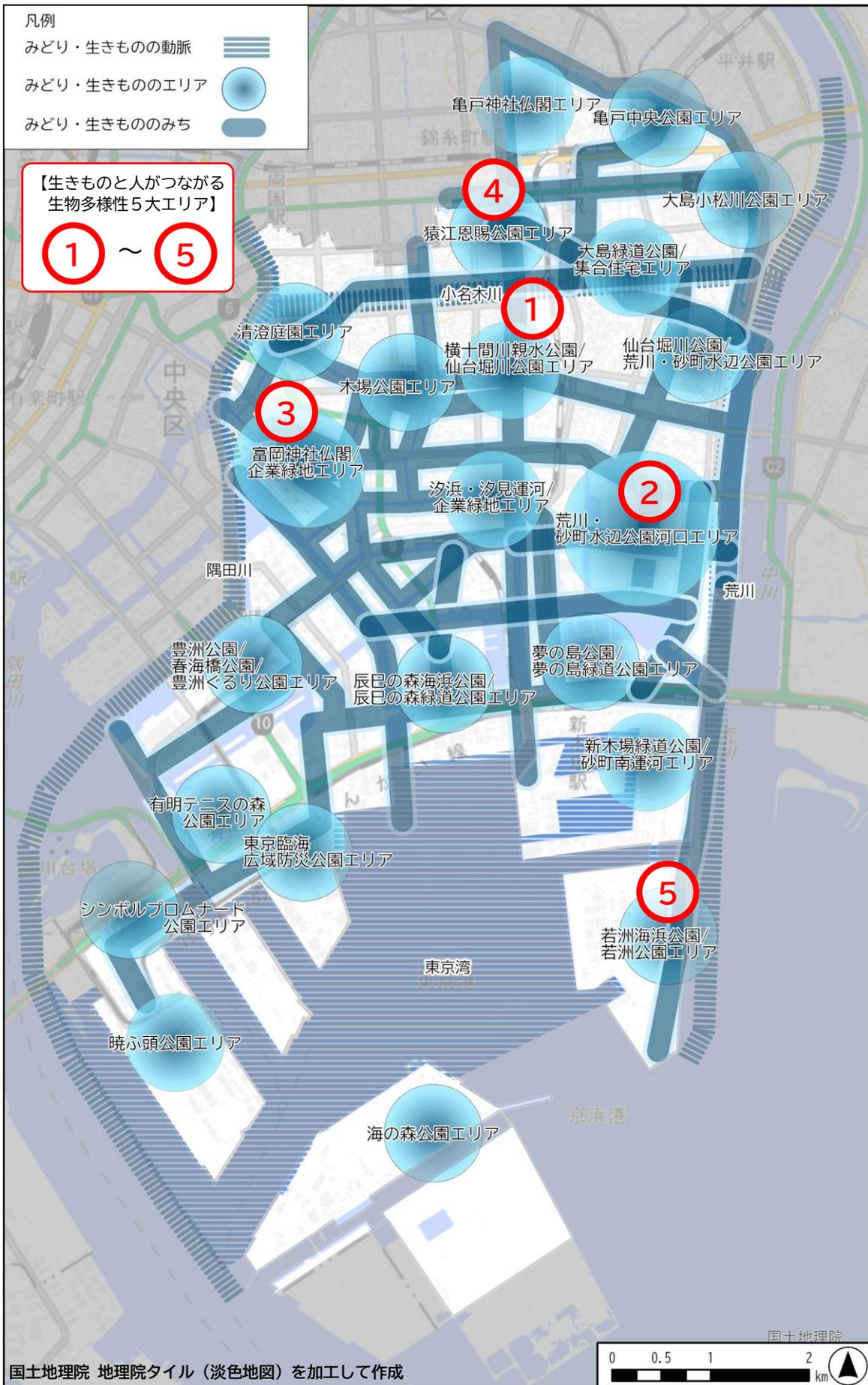
第2章

第3章

第4章

第5章

資料編



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

図 3-4 みどり・生きものの将来構造
【生きものと人がつながる生物多様性5大エリア】

表 3-3 新たに設定したみどり・生きもののエリアの概要

みどり・生きもののエリア (新設)	生きものの 主要な生息・生育地	設定の観点
横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア	横十間川親水公園及びポケットエコスペース、仙台堀川公園及びポケットエコスペース、南砂緑道公園、江東区役所等	<ul style="list-style-type: none"> ・区中央部に位置し、縦横に連続する親水公園がエコロジカルネットワークとして機能しています。 ・横十間川親水公園・仙台堀川公園ポケットエコスペースは一般立入が制限された保護区となっており、希少種保全の観点において重要です。 ・活動拠点となり得る江東区役所があります。
荒川・砂町水辺公園河口エリア	新砂干潟、新砂のぞみ公園及びポケットエコスペース、荒川砂町水辺公園及びポケットエコスペース(下流)、砂町水再生センター等	<ul style="list-style-type: none"> ・区東側に位置し、深川・城東地区と湾岸地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、荒川上流域と海をつなぐ河口に面しています。 ・新砂干潟にはシギ・チドリ類やカニ類、ハゼ类等、区の特徴的かつ保全すべき生態系があります。
富岡神社仏閣/企業緑地エリア	隅田川河口、越中島公園、再生の杜、木場千年の森、富岡八幡宮、東京海洋大学越中島キャンパス等	<ul style="list-style-type: none"> ・区西側に位置し、深川地区と南部地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、隅田川上流と海をつなぐ河口に面しています。 ・企業緑地や隅田川沿いのビオトープの他、東京海洋大学越中島キャンパスや富岡八幡宮のまとまった緑地があります。
汐浜・汐見運河/企業緑地エリア	NOVARE、東陽町ぐりんたす、汐浜運河、汐見運河等	<ul style="list-style-type: none"> ・区中央部に位置し、区東西にある富岡神社仏閣/企業緑地エリアと荒川・砂町水辺公園河口エリア、南部地区、湾岸地区をつなぐ拠点として機能しています。 ・駅前の商業地が集中している中で汐浜運河や汐見運河と企業緑地の連続性が形成されています。
大島緑道公園/集合住宅エリア	大島緑道公園、大島四丁目団地、大島六丁目団地、北砂五丁目団地広場等	<ul style="list-style-type: none"> ・区北東側に位置し、北砂五丁目団地といったまとまった集合住宅緑地が城東北部・城東南部地区と都立猿江恩賜公園、荒川河川敷つなぐ拠点として機能しています。 ・周辺には小学校ポケットエコスペースが広く分布しており、ポケットエコスペース同士のエコロジカルネットワークが密に形成されています。
亀戸神社仏閣エリア	亀戸天神社、龍眼寺、普門院等	<ul style="list-style-type: none"> ・区北部に位置し、南側にある都立猿江恩賜公園と北側の墨田区とのエコロジカルネットワーク拠点として機能しています。 ・亀戸天神社や龍眼寺等、歴史的な土壌が受け継がれており、花見等の文化活動の拠点にもなっています。
新木場緑道公園/砂町南運河エリア	新木場緑道公園、東京ハリポート、砂町南運河等	<ul style="list-style-type: none"> ・区南東部に位置し、湾岸地区の南北をつなぐエコロジカルネットワーク拠点として機能しています。 ・東京湾に面しており海岸沿いには礫環境もあることから、海の生きものの生息地としても重要です。
暁心頭公園エリア	暁心頭公園、青海北心頭公園、青海南心頭公園、青海中央心頭公園、青海緑道公園等	<ul style="list-style-type: none"> ・区南西部に位置し、南部地区や都立海の森公園をつなぐエコロジカルネットワーク拠点として機能しています。 ・港湾からの外来種の侵入経路にもなっており、外来種対策拠点として重要です。

表 3-4 【生きもの与人がつながる生物多様性 5 大エリア】の概要

みどり・生きものエリア/ 生きもの主要な生息・生育地	選定根拠と将来展望
<p>①横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア (新設)</p> <p>仙台堀川公園、横十間川親水公園、仙台堀川公園ポケットエコスペース、横十間川親水公園ポケットエコスペース、南砂緑道公園、江東区役所 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区中央部に位置し、縦横に連続する親水公園がエコロジカルネットワークとして機能しています。 ・仙台堀川公園・横十間川親水公園ポケットエコスペースは一般立入が制限された保護区となっており、希少種保全の観点において重要です。 ・親水公園や緑道公園、江東区役所等、区民にとって身近な空間であり、普及啓発や区民参画の拠点とします。
<p>②荒川・砂町水辺公園河口エリア (新設)</p> <p>荒川河口・新砂干潟、新砂のぞみ公園ポケットエコスペース、荒川砂町水辺公園ポケットエコスペース(下流)、砂町水再生センター 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区東側に位置し、城東地区と湾岸地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、荒川上流域と海をつなぐ河口に面しています。 ・新砂干潟にはシギ・チドリ類やカニ類、ハゼ類等区の特徴的かつ保全すべき生態系があります。 ・新砂干潟や各ポケットエコスペースにおいて民間団体の保全活動が積極的に行われている他、砂町水再生センターは都管理、荒川は国管理等、様々な主体との連携・協働の模範となる拠点とします。
<p>③富岡神社仏閣/企業緑地エリア (新設)</p> <p>隅田川河口、越中島公園、再生の杜、木場千年の森、富岡八幡宮、東京海洋大学越中島キャンパス 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区西側に位置し、深川地区と南部地区をつなぐエコロジカルネットワークを形成している他、隅田川上流と海をつなぐ河口に面しています。 ・富岡八幡宮には歴史的な自然環境が残されている他、東京海洋大学越中島キャンパスにはまとまった緑地があり、歴史・文化や教育、産官学連携の観点でも重要です。 ・企業緑地や隅田川沿いのビオトープにおける保全活動が積極的に行われ、様々な主体との連携・協働や多角的な活動の拠点とします。
<p>④猿江恩賜公園エリア (既設)</p> <p>都立猿江恩賜公園、豎川第一公園ポケットエコスペース、釜屋堀公園ポケットエコスペース 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区北側に位置し、墨田区との境界にあり、区内北側一帯や区外とのエコロジカルネットワークの拠点です。 ・都立猿江恩賜公園では都立科学技術高校との連携、周辺にある各ポケットエコスペースでは民間団体の保全活動が積極的に行われており、様々な主体として連携・協働、普及啓発の取組が期待できます。 ・同公園は、都の「多様な生物が生息する都立公園」に選定されており、生物多様性に配慮した工事やかいぼりによる外来生物の駆除等先端的な取組が行われていることから、公園管理のモデル拠点とします。
<p>⑤若洲海浜公園/若洲公園エリア (既設)</p> <p>都立若洲海浜公園、若洲公園、若洲ゴルフリンクス 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区南側に位置し、東京湾に面しており、海辺を利用する生きものや海から飛来した生きものが内陸を移動するためのエコロジカルネットワークの入り口として機能しています。 ・若洲公園は江東区版ゼロカーボンパークを目指しており、環境教育や普及啓発の取組が期待できます。 ・広大な草地環境がある他、人工磯のエコトーンがあり、陸と海の生きもの主要な生息・生育地の拠点とします。

(2) 地区別の現状・課題と 2050 年将来像

前述の重要拠点を踏まえた地区別の現状・課題・方針を次頁以降に示します。

地区区分は、「江東区都市計画マスタープラン 2022」（令和 4（2022）年 3 月）に従い、6 つの地区（南部地区は西と東を 1 地区とします）に分けています。

地域区分	地区区分	対象区域	
1. 深川地域	1. 深川北部地区	白河出張所管内 小松橋出張所管内	
	2. 深川南部地区	旧東陽出張所管内 富岡出張所管内	
2. 城東地域	3. 城東北部地区	亀戸出張所管内 大島出張所管内	
	4. 城東南部地区	砂町出張所管内 南砂出張所管内のうち湾岸地区以外	
3. 南部地域	南部地区	5. 南部地区西	豊洲特別出張所管内（豊洲・有明・東雲・青海） （臨海副都心以外の首都高速道路湾岸線以南は除く）
		6. 南部地区東	豊洲特別出張所管内（塩浜・潮見・枝川・辰巳） （臨海副都心以外の首都高速道路湾岸線以南は除く）
	7. 湾岸地区	首都高速道路湾岸線以南（臨海副都心は除く） 南砂出張所管内のうち、新砂（新砂地区地区計画区域は除く）、夢の島、新木場、若洲、中央防波堤埋立地	



図 3-5 江東区都市計画マスタープラン 2022 における地域・地区区分

コラム CITY IN THE GREEN

江東区は水辺と緑に恵まれたまちです。また、水辺を活かした親水公園や大きな樹木が育った大規模な公園等、特色ある公園にも恵まれています。こうしたみどりは将来に引き継いでいくべき貴重な資産です。

「CITY IN THE GREEN (CIG)」とは、江東区が目指すみどりのまちづくりの基本となる考え方であり、「都市の中のみどり」ではなく、「みどりの中の都市」をイメージしています。

江東区では、「CIG」を合言葉に、みどりの資産を大切に守り、育てていくとともに、あらゆる場所での緑化を進めることで、まち全体がみどりに囲まれた「水彩都市・江東」の実現を目指しています。



▲詳しくはこちら



【出典】江東区ウェブサイト「江東区は、「CITY IN THE GREEN」へ！」
(<https://www.city.koto.lg.jp/470132/machizukuri/midori/green/cig20.html>)

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

資料編

1) 深川北部地区

① 地区の概況

深川北部地区は、区の北西部に位置しており、地区内には、隅田川、小名木川、大横川、横十間川、仙台堀川といった河川が縦横に流れています。また、都立公園や集合住宅緑地等まとまった緑地や、淡水池があるポケットエコスペースが点在しており、仙台堀川や大横川沿いの緑地が縦横のエコロジカルネットワークを形成しています。

また、「多様な生物が生息する都立公園」である都立猿江恩賜公園や都指定名勝に指定されている都立清澄庭園には、大規模な池に水鳥や水生生物が生息しています。

表 3-5 地区の概況：深川北部地区

項目		地区概況	
		地区別	区全域
緑被率	R6 年 度 時 点	14.48% (6地区中6番目)	21.01%
公園 (児童遊園を含む)		箇所数 298 箇所	298 箇所
		面積 515.1ha	515.1ha
ポケット エコスペース		8 箇所 (15.4%) (区立公園 3 箇所 (仙台堀川公園、福富川公園、三島橋公園)、小学校 4 箇所、幼稚園 1 箇所)	52 箇所
みどり・生きもののエリア		4 箇所 (5 大エリア番号) 横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア (①)、猿江恩賜公園エリア (④)、木場公園エリア、清澄庭園エリア	22 箇所
生きものの主 要な生息・生 育環境	陸域環境 (樹林・草地)	都立木場公園、集合住宅緑地、社寺林 (<small>さいがんど</small> 霊巖寺)	 仙台堀川公園 ポケットエコスペース
	陸水域複合 環境 (淡水 池・干潟・磯・ 緩傾斜護岸)	都立猿江恩賜公園 (淡水池)、都立清澄庭園 (淡水池)、ポケットエコスペース (淡水池)、仙台堀川 (緩傾斜護岸)	
	水域環境 (河川・運河・ 海)	隅田川、小名木川、仙台堀川、大横川、横十間川	
エコロジカル ネットワーク (第 2 章第 3 節における解 析結果)	樹林地ネッ トワーク	横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア～都立木場公園～都立清澄庭園間では、仙台堀川に沿って東西につながっています。また、都立猿江恩賜公園は城東北部地区とつながっています。	
	草地ネッ トワーク	都立猿江恩賜公園や都立木場公園、都立清澄庭園以外に草地が少なく、十分なネットワークが形成されていません。	
	河川ネッ トワーク	区北側を横断する小名木川が大河川の荒川と隅田川をつなげており、区中心部を縦横に流れる大横川及び仙台堀川がネットワークにおいて重要です。	
	淡水池ネッ トワーク	都立猿江恩賜公園や都立清澄庭園、仙台堀川公園ポケットエコスペース等が重要なつながりの拠点となっており、これらを中心に淡水池が網目状につながっています。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組		<ul style="list-style-type: none"> 都立猿江恩賜公園は、都の「多様な生物が生息する都立公園」に選定されており、生物多様性に配慮した工事や希少種の保全、かいぼりによる外来種駆除等の先端的な取組が行われています。 同公園では、都立科学技術高校と連携したいきもの展の開催、ヒキガエルの研究が行われています。 仙台堀川公園等、3 つの区立公園ポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理活動が行われています。 	 都立猿江恩賜公園

② 地区の課題

深川北部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

深川北部地区は、他地区と比較して緑被地が少なく、また草地や淡水池環境が限定的である他、南北方向における樹林地のエコロジカルネットワークや陸域と水域をつなぐエコトーンが十分に形成されていないことが課題と言えます。

表 3-6 地区の課題：深川北部地区

項目	地区の課題
生きものの主要な生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緑被率が6地区中で最も低く、都立公園のようなまとまった緑地やポケットエコスペースのような自然度の高い緑地は、地区の南～東側に偏っています。 ・他地区と比較して草地環境が不足しています。 ・都立猿江恩賜公園やポケットエコスペースのような陸水域複合環境や生物多様性の保全・向上を目指した緑地が限定的です。 ・各河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・城東北部地区との南北方向をつなぐ樹林地のエコロジカルネットワークが途切れており、十分につながっていません。 ・都立猿江恩賜公園や都立木場公園、都立清澄庭園以外に草地が少なく、十分に草地がつながっていません。 ・上流域と連続する地区西側の隅田川、地区内を縦横に流れる小名木川や大横川、仙台堀川は、規模が大きく水生生物の重要なネットワークであるものの、直立護岸で形成されており、緩傾斜護岸のようなエコトーンがあまり見られません。

③ 地区の将来像

深川北部地区の概況や課題を踏まえた2050年の将来像を以下に示します。

2050年将来像

猿江恩賜公園等に昔から江東区にいる生きものが保護され、みどり・生きもののエリアを中心に自然と触れ合える水と緑の空間が広がっています。

- ・横十間川親水公園/仙台堀川公園エリアや都立猿江恩賜公園等の都立公園エリアを中心に、区立公園や小学校、集合住宅緑地等の民間緑地も含め既存の緑地が維持、多自然化し、区域内外をつなぐエコロジカルネットワークを形成しています。
 - ・隅田川や小名木川、大横川、仙台堀川、横十間川は良好な水質が保たれています。
 - ・都立公園では、都立猿江恩賜公園を中心に生物多様性に配慮した維持管理や生物調査、多様な主体が連携した環境教育や普及啓発の取組が行われています。また、都立清澄庭園の歴史的な景観や文化が受け継がれています。
 - ・ポケットエコスペースでは、持続的かつ適切な維持管理が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。
- また、区立公園や小学校等で新たなポケットエコスペースが創出されており、生きものの生息・生育地が拡大し、多様化しています。更に、定期的な調査が行われ、学校教育や身近な普及啓発の場として活用されています。



猿江恩賜公園のいきもの展

【出典】東京都立科学技術高等学校ウェブサイト「科学技術高校と猿江恩賜公園のコラボ企画！」

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

深川北部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-7 深川北部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	【5大 エリア①】 横十間川親 水公園/仙台 堀川公園エ リア（仙台堀 川公園・横十 間川親水公 園、各ポケッ トエコス ペース等）	・各ポケットエコスペースは湿地性植物の主要な生息・生育地として機能しており、適切な維持管理が行われています。	I
		・縦横に連続する公園の緑地・水辺が保たれ、多様化しており、区中心部のエコロジカルネットワークの拠点として機能しています。	
		・住環境の中に生きものと人が適切な距離感で共存しています。	
	【5大 エリア④】 猿江恩賜公園 エリア	・日常の自然観察や憩いの場となっています。	II
		・身近な自然を題材とした普及啓発や環境教育が定期的に行われており、保全活動や調査への区民参加が進んでいます。	III
		・生物多様性保全事業の整備が進められ、多様な主体との連携により、多様な樹林や池が保たれエコトーンを形成しています。	I
	都立公園エ リア （木場公園・ 清澄庭園）	・生態系に影響を及ぼす外来種の防除を実施しています。	II
		・サクラやチューリップ、池に集まる水鳥の名所として自然観察の場であり、様々な自然体験イベントが開催されています。	III
		・生物多様性に配慮した公園管理手法を普及啓発しています。	
みどり・ 生きもの の動脈・ みち	河川・運河 （小名木川・ 隅田川・大横 川・仙台堀 川・横十間 川）	・都立科学技術高校との連携が継続して行われています。	I
		・大横川や仙台堀川とつながる緑地や水辺が保たれ、生物多様性に配慮した維持管理が行われています。	II
	都立清澄庭 園～小名木 川	・アジサイ等の花や紅葉、水鳥と名石の名勝として自然観察の場であり、昔から受け継がれてきた歴史的景観や文化、そこに生息・生育する動植物を題材とした自然体験が行われています。	III
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエ コス ペース （三島橋公 園、福富川公 園、仙台堀川 公園、各小学 校・幼稚園）	・広大な緑地を活用した環境教育イベントや区民まつりと連携したこども向けの普及啓発が行われています。	I
		・荒川と隅田川、区内部の河川が縦横につながり、水生生物や水鳥の重要なエコロジカルネットワークとして機能し、良好な水質が保たれています。	II
		・生きもの新たな生息・生育環境が形成されています。	
	コミュニテイ ガーデン	・豊かな水辺で釣りや水鳥観察のイベントが開かれ、川沿いの桜並木では花見を楽しみ、水辺に親しめる場となっています。	I
		・区立公園や集合住宅（マンション）、神社仏閣といった緑地では生物多様性に配慮した維持管理が行われています。	II
		・新たな水辺や自然度の高い空間等が新たに創出され、地区内外のエコロジカルネットワーク形成に貢献しています。	III
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエ コス ペース （三島橋公 園、福富川公 園、仙台堀川 公園、各小学 校・幼稚園）	・日常の自然観察や憩いの場となっています。	I
		・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	II
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、こどもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	III
コミュニテイ ガーデン	・学校教育や身近な普及啓発の場として活用されており、ポケットエコスペースの重要性に対する認知度が高まっています。	II	
	・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間がまちを彩っています	III	
		・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-6 深川北部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

2) 深川南部地区

① 地区の概況

深川南部地区は、区の中央西に位置しており、地区内には、隅田川、大横川、横十間川、仙台堀川といった河川が縦横に流れています。また、都立公園や富岡八幡宮、東京海洋大学越中島キャンパス等まとまった緑地や、淡水池があるポケットエコスペースや企業緑地が点在しており、エコロジカルネットワークを形成しています。

企業緑地「再生の杜」、「木場千年の森」や、隅田川沿いの「越中島公園ビオトープ」では多様な主体が地域と連携し、対外的な取組が積極的に行われています。

表 3-8 地区の概況：深川南部地区

項目	地区概況		
	地区別		区全域
緑被率	R6	17.64% (6地区中3番目)	21.01%
公園(児童遊園を含む)	箇所数	49か所 (16.4%)	298か所
	面積	30.8ha (7.0%)	515.1ha
ポケットエコスペース	時点	7か所 (13.5%) (区立公園2か所(横十間川親水公園、東陽一丁目第一公園)、小学校4か所、幼稚園1か所)	52か所
みどり・生きもののエリア	4か所(5大エリア番号) 横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア(①)、富岡神社仏閣/企業緑地エリア(③)、木場公園エリア、汐浜・汐見運河/企業緑地エリア		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	都立木場公園、東京海洋大学越中島キャンパス、社寺林(富岡八幡宮等)、江東区役所	 <p>再生の杜 【出典】清水建設株式会社 写真提供</p>
	陸水域複合環境(淡水池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(淡水池)、再生の杜(淡水池)、木場千年の森(淡水池)、越中島公園ビオトープ(浅瀬)	
	水域環境(河川・運河・海)	隅田川、大横川、横十間川、仙台堀川、平久川、大島川西支川等	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	都立木場公園を中心に、南西の富岡神社仏閣/企業緑地エリア、南東の汐浜・汐見運河/企業緑地エリアとつながっています。	
	草地ネットワーク	都立木場公園や富岡神社仏閣/企業緑地エリアでつながりがありますが、他地区と十分につながっていません。	
	河川ネットワーク	地区内の河川が網目状につながっています。また、地区西側を流下する隅田川と晴海運河、豊洲運河が河口付近でつながっており、河川域と海域つながりとして重要です。	
	淡水池ネットワーク	再生の杜や木場千年の森、東陽一丁目第一公園ポケットエコスペースが南部地区とのつながりに関して重要です。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> 横十間川親水公園(江東植物保存区：KOFLOS)等2つの区立公園ポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理が行われています。 横十間川親水公園にある区が整備した田んぼでは農業を使わず、無化学肥料、無動力の稲作体験が行われています。 隅田川沿いでは、複数の団体による越中島公園ビオトープ(本川から柵で囲われた浅瀬・ワンド)の造成や調査が行われています。 再生の杜や木場千年の森は、自然共生サイトに認定されており、事業者によるビオトープの造成や調査、緑地を活用した環境教育等、様々な活動やイベントの場となっています。 		 <p>越中島公園ビオトープ</p>

② 地区の課題

深川南部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

深川南部地区は、都立公園や企業緑地、ポケットエコスペース、社寺林等、多種多様な水辺・緑地がありますが、まとまった緑地は限定的であり、網目状の河川を活かした樹林地のつながりや草地のつながりがあまり見られないこと、直立護岸が多く陸域と水域をつなぐエコトーンが十分に形成されていないことが課題と言えます。

表 3-9 地区の課題：深川南部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・都立公園や東京海洋大学越中島キャンパス、富岡八幡宮等のまとまった緑地は限定的であり、地区北西の永代や地区東の東陽等は緑被地が少ないです。 ・再生の杜や木場千年の森、ポケットエコスペースのような陸水複合環境や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的です。 ・各河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・上流域からの連続性を有する隅田川や網目状の区内部の河川を活かした樹林地のつながりが見られません。 ・都立都立木場公園や富岡神社仏閣/企業緑地エリア以外に草地が少なく、十分に草地がつながっていません。 ・越中島公園ビオトープといった浅瀬・ワンドが一部あるものの、河川の大部分は直立護岸で形成されておりエコトーンがあまり見られません。

③ 地区の将来像

深川南部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

2050 年将来像

区役所や企業緑地、越中島公園ビオトープ、大学キャンパスの緑地等を活かした産官学連携による生物多様性保全が進んでいます。

- ・横十間川親水公園/仙台堀川公園エリアや富岡神社仏閣/企業緑地エリア、まとまった緑地を有する都立木場公園を中心に、区役所や区立公園、小学校、商業施設緑地等の民間緑地も含め既存の緑地が維持、多自然化しており、隅田川と網目状の河川、その護岸沿いの緑地が水と緑のエコロジカルネットワークを形成しています。
- ・隅田川や大横川、仙台堀川、横十間川、平久川等は良好な水質が保たれています。
- ・富岡神社仏閣/企業緑地エリアでは、大学緑地や社寺林と企業緑地、隅田川・東京湾を活用した、産官学連携や先端技術に基づく生物多様性の保全・研究・環境教育、歴史・文化と生物多様性の関連性を題材とした普及啓発といった多角的・対外的な取組が行われています。
- ・KOFLOS を代表とするポケットエコスペースでは、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。
- ・多様な主体が連携した生物多様性フェアが開かれ、多くの人を訪れています。



横十間川親水公園ポケットエコスペース
(江東植物保存区：KOFLOS)

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

深川南部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-10 深川南部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	【5大エリア ①】 横十間川親水 公園/仙台堀 川公園エリア	(深川北部地区に詳述)	
	【5大エリア ③】 富岡神社仏閣 /企業緑地エ リア(越中島 公園、東京海 洋大学越中島 キャンパス、 越中島小学 校、富岡八幡 宮、再生の杜、 木場千年の森 等)	・東京海洋大学越中島キャンパスや富岡八幡宮のまとまった緑地は、エコロジカルネットワークの要として、生物多様性に配慮した維持管理や調査、希少種の保全活動が行われています。	I
		・自然共生サイトの企業緑地(再生の杜・木場千年の森)や越中島公園ビオトープでは、良好なエコトーンが形成されており、水鳥や希少な水生生物が保全されています。	II
		・区民だけでなく、キャンパスは学生、富岡八幡宮は参拝者等の区内外の方々の自然観察や憩いの場となっています。	
	・歴史的な土壌に生育するクゲヌマラン等、歴史と文化に根づく生物多様性を感じることができる空間となっています。	・大学緑地や社寺林、企業緑地、隅田川・東京湾を活用した産官学連携や先端技術に基づく生物多様性の保全・研究・環境教育活動、歴史・文化と生物多様性の関連性を題材とした普及啓発等、各主体の多角的な取組が行われています。	III
汐浜・汐見運 河/企業緑地 エリア	(南部地区に詳述)		
木場公園エ リア	(深川北部地区に詳述)		
みどり・ 生きもの のみち	河川・運河 (隅田川、大 横川、横十間 川、仙台堀川、 平久川等)	・地区内を網目状につなぐ水生生物や水鳥の水域のエコロジカルネットワーク、河川沿いの樹林地のエコロジカルネットワークが地区内外の緑地をつなげるように機能し、生きもの移動や交流を容易にしています。	I
		・生きもの新たな生息・生育環境が広く形成されています。	II
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエコ スペース (横十間川親 水公園 (KOFLOS)、東 陽一丁目第一 公園、各小学 校・幼稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	I
		・KOFLOSは植物保存区として保全の研究が行われています。	II
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、子どもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	
	コミュニティ ガーデン	・学校教育や身近な普及啓発の場として活用されており、ポケットエコスペースの重要性の認知度が高まっています。	III
		・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり区民だけでなく来訪者も楽しめる空間がまちを彩っています。	II
田んぼ(横十 間川親水公 園)	・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。	III	
	・田んぼの学校に多くの子どもが参加し、昔ながらの農体験や水田にいる生きもの観察を通して自然に親しんでいます。	II	
	・田植え体験を通して江戸期にあった水田・湿地環境と土地利用の変遷、生物多様性の恵みの大切さを学ぶ機会があります。	III	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



国土地理院 地理院タイル (淡色地図) を加工して作成

図 3-7 深川南部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

3) 城東北部地区

① 地区の概況

城東北部地区は、区の北東部に位置しており、小名木川、旧中川、横十間川、豎川、北十間川といった河川が地区を囲んでいます。また、旧中川の河川敷には水際植生が発達しており、まとまった緑地を持つ都立公園があります。また、全地区で最も多くのポケットエコスペースがあり、地区内の淡水池のネットワークが発達しています。

本地区には、香取小学校における亀戸ダイコンの栽培、亀戸天神社におけるフジの花等、生物多様性に基づく江東区を代表する歴史・文化が受け継がれています。

表 3-11 地区の概況：城東北部地区

項目	地区概況		
	地区別		区全域
緑被率	R6	15.60% (6地区中5番目)	21.01%
公園(児童遊園を含む)	箇所数	63か所 (21.1%)	298か所
	面積	40.5ha (7.9%)	515.1ha
ポケットエコスペース	時点	14か所 (26.9%) (区立公園3か所(釜屋堀公園、豎川第一公園、亀戸九丁目緑道公園)、小学校10か所、幼稚園1か所)	52か所
みどり・生きもののエリア	4か所(5大エリア番号) 大島緑道公園/集合住宅エリア、亀戸神社仏閣エリア、亀戸中央公園エリア、大島小松川公園エリア		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	都立亀戸中央公園、都立大島小松川公園、社寺林(普門院)、大島・亀戸緑道公園、集合住宅緑地(大島六丁目団地等)	 旧中川水辺公園 水際植生
	陸水域複合環境(淡水池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(淡水池)、旧中川水辺公園(旧中川河川敷の緩傾斜護岸・水際植生)、亀戸天神社(淡水池)	
	水域環境(河川・運河・海)	小名木川、旧中川、北十間川、横十間川、豎川等	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	都立猿江恩賜公園～大島緑道公園/集合住宅エリア～荒川方面の地区南部における東西方向につながっています。	
	草地ネットワーク	都立亀戸中央公園～亀戸緑道公園～大島緑道公園の軸、旧中川河川敷の南東方向の軸でつながりがある他、地区内にある集合住宅緑地や公園が網目状につながっています。	
	河川ネットワーク	河川が地区を外周し、旧中川と荒川がつながっています。旧中川右岸の河川敷は捨石による緩傾斜護岸と水際植生が都立亀戸中央公園から都立大島小松川公園まで連続しています。	
	淡水池ネットワーク	地区内に数多くポケットエコスペースが点在しており、これらが地区内だけでなく隣接地区とも網目状につながっています。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> 区立公園ポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理活動が行われています。 香取小学校には亀戸ダイコンの栽培、亀戸天神社にはフジの花等、生物多様性に基づく江東区を代表する歴史・文化が受け継がれています。 都立亀戸中央公園では、公園の樹木に親しんでもらうためデジタルガイド「はなもく散歩」を導入しクイズ形式で木の生態を知れる取組があります。 東大島文化センターでは、「川と緑の生きもの展～江東区の魚と昆虫大集合～」が毎年開催され、江東区の水辺に生息する生きものを展示しています。 		 都立亀戸中央公園

② 地区の課題

城東北部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

城東北部地区は、他地区と比較して樹林地等の緑被地が少なく、また生物多様性の保全に特化した場所や空間が限定的である他、旧中川沿いと地区内部をつなぐ樹林地エコロジカルネットワークや区内部の河川において陸域と水域をつなぐエコトーンが十分に形成されていないことが課題と言えます。

表 3-12 地区の課題：城東北部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・緑被率が6地区中で二番目に低く、生きものの生息・生育地が都立公園や集合住宅団地、旧中川河川敷と限定的です。 ・生物多様性の保全に特化した空間はポケットエコスペース等に限定されています。 ・各河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・都立亀戸中央公園等旧中川沿いと地区中央部をつなぐ樹林地エコロジカルネットワークが十分に形成されていません。 ・地区を外周する旧中川や各河川は魚類や水鳥のネットワークを形成していますが、旧中川以外の区内部の河川は直立護岸で形成されておりエコトーンがほとんど見られません。

③ 地区の将来像

城東北部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

2050 年将来像

亀戸天神社等の歴史的な花文化や江戸野菜を楽しむことができ、大島緑道公園/集合住宅エリアを中心に新たな水辺や緑地が創出されています。

- ・まとまった緑地を有する都立亀戸中央公園や都立大島小松川公園と自然度の高い旧中川の河川敷から地区中央部～南部にかけて、区立公園、小学校、集合住宅団地等の民間緑地も含めた既存の緑地が維持、多自然化しています。
- ・緑道公園や街路樹等の樹林地が旧中川と地区中央部をつないでいます。
- ・小名木川、横十間川、旧中川等は良好な水質が保たれ、地区を囲んでいます。
- ・大島緑道公園/集合住宅エリアでは、集合住宅団地の建て替えにより生物多様性に配慮した緑地が創出されています。また持続的な維持管理が管理者や住民、行政、民間団体等の連携・協働により進められており、景観や住環境の向上、団地の価値の向上に寄与する等、生きものと人が共存する空間が成り立っています。
- ・亀戸神社仏閣エリアでは、亀戸天神社のフジや龍眼寺のハギ、香取小学校で栽培されている亀戸ダイコン等の江東区を代表する歴史・文化が受け継がれ、江戸期から続く生物多様性の恵みとして学校教育や区外から訪れる来訪者への普及啓発に広く活用されています。
- ・ポケットエコスペースでは、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。また、小学校では、地域部活動の一環で小学生による維持管理や観察記録の発信が行われています。



香取小学校ポケットエコスペース

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

城東北部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-13 城東北部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	都立公園エ リア (亀戸中央 公園・大島 小松川公 園)・旧中川 水辺公園	・旧中川沿いにある都立公園では、河川敷の緩傾斜護岸・水際植生から草地、樹林地までのエコトーンが充実しており、生物多様性に配慮した維持管理が行われています。	I
		・花、紅葉の名所や水辺の釣り場等の自然観察や体験の場、健康増進・スポーツの場として広く認知されています。 ・避難場所や雨庭等防災拠点として機能しています。	II
		・多様な主体と連携した水辺を活用した釣りイベントや水辺の生きもの展示会等で、生物多様性だけでなく、旧中川の歴史や防災・親水に関する環境教育が行われています。	III
	大島緑道公 園/集合住 宅エリア (大島四丁 目団地、大 島六丁目団 地、北砂五 丁目団地 等)	・集合住宅団地の建て替えにより、生物多様性に配慮した緑地が創出され、持続的な維持管理が管理者や住民、行政、民間団体等の連携・協働により進められており、生きものと人が共存する空間があります。	I
		・日常の自然観察や憩いの場となっています。また、「カフェ 06」等のコミュニティサロンでは、団地で見られる生きものの観察記録や写真が住民から投稿され集まっています。	II
	亀戸神社仏 閣エリア (亀戸天神 社、龍眼 寺、香取小 学校等)	・民間団体や造園事業者と連携し、生物多様性に配慮した維持管理が行われて、昔から受け継がれてきた土壌や緑地に生育する希少植物が計画的に保全されています。	I
・亀戸天神社のフジや龍眼寺のハギ、香取小学校で栽培されている亀戸ダイコン等の江東区を代表する歴史・文化が受け継がれ、体験の場となっています。		II	
・花文化や江戸東京野菜等、江戸期から続く江東区独自の生物多様性の恵みとして、学校教育や来訪者への体験型の普及啓発に広く活用されています。		III	
みどり・ 生きもの の動脈・ みち	河川・運河 (小名木 川・旧中 川・北十間 川・竪川・ 横十間川)	・地区を縦横に流れるように水生生物や水鳥の重要なエコロジカルネットワークとして機能し、良好な水質が保たれています。 ・生きもの新たな生息・生育環境が形成されています。	I
		・豊かな水辺で釣りや水鳥観察のイベントが開かれ、川沿いの植栽を楽しみ、水辺に親しめる場となっています。	II
	大島緑道公 園・亀戸緑 道公園	・まち中を通る身近な自然が保たれ、みどりの拠点や点在する緑地をつなぐエコロジカルネットワークとして機能しています。	I
・日常の自然観察や憩いの場となっています。		II	
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエ コスペース (釜屋堀公 園、竪川第 一公園、亀 戸九丁目緑 道公園、各 小学校・幼 稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	I
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、こどもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	II
		・小学校では地域部活動の一環で小学生による維持管理や観察記録の発信が行われており、学校間で連携しています。	III
	コミュニ ティガーデ ン	・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間が広がっています	II
・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。		III	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-8 城東北部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

4) 城東南部地区

① 地区の概況

城東南部地区は、区の中央東に位置しており、荒川や小名木川、仙台堀川、横十間川といった河川が地区を縦横に流れています。特に荒川の河川敷には広大な草地や水辺環境があり、上流域からのエコロジカルネットワークとして重要です。また、地区を縦横断する仙台堀川は樹林地や草地のつながりを形成しているだけでなく、日常の憩いの場である他、隣接する区民農園では農業を体験できます。

本地区では、荒川・砂町水辺公園【砂村】ポケットエコスペースにおける保全活動や小学校における砂村三寸ニンジン・砂村一本ネギの栽培等が行われています。

表 3-14 地区の概況：城東南部地区

項目	地区概況		
	地区別		区全域
緑被率	16.16% (6地区中4番目)		21.01%
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	65か所 (21.8%)	298か所
	面積	26.3ha (5.1%)	515.1ha
ポケットエコスペース	R6年度時点	12か所 (23.1%) (区立公園2か所(荒川・砂町水辺公園【砂村】、新砂のぞみ公園)、小学校9か所、幼稚園1か所)	52か所
みどり・生きもののエリア	4か所(5大エリア番号) 横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア(①)、荒川・砂町水辺公園河口エリア(②)大島緑道公園/集合住宅エリア、仙台堀川公園/荒川・砂町水辺公園エリア		22か所
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	南砂緑道公園・南砂住宅団地、南砂三丁目公園、北砂五丁目団地	 荒川
	陸水域複合環境(淡水池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(淡水池)、仙台堀川公園(淡水池)、荒川・砂町水辺公園(荒川河川敷(緩傾斜護岸))	
	水域環境(河川・運河・海)	荒川、小名木川、仙台堀川、横十間川	
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	仙台堀川沿いの樹林地が大島緑道公園/集合住宅エリア～横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア間をつないでいる他、横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア～荒川・砂町水辺公園河口エリアも樹林地がつながっています。	
	草地ネットワーク	荒川河川敷が上流域からの草地をつないでいる他、仙台堀川沿いも草地がつながっています。	
	河川ネットワーク	地区を流れる小名木川と仙台堀川が荒川とつながっています。	
	淡水池ネットワーク	仙台堀川公園の淡水池を中心に地区内に数多くあるポケットエコスペースが地区内外と網目状につながっています。	
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> 荒川・砂町水辺公園【砂村】、新砂のぞみ公園のポケットエコスペースでは、民間団体による希少種の保全・維持管理活動が行われています。 砂町小学校には砂村三寸ニンジン、第五砂町小学校には砂村一本ネギの栽培等、生物多様性に基づく江東区の歴史・文化が受け継がれています。 区内で唯一の「森のある小学校」である亀高小学校では、「わんぱくの森」にある果実の収穫や水田では田植え等の体験活動が行われています。 砂町及び城東区民農園では、手軽に野菜・草花づくりを楽しめる貸し農園であり、収穫を通して生物多様性の恵みを味わう空間があります。 		 荒川・砂町水辺公園 (砂村ポケットエコスペース)

② 地区の課題

城東南部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

城東南部地区は、他地区と比較して緑被地が少なく、また生物多様性の保全に特化した場所や空間が限定的である他、広大な緑地を有する荒川と地区北部の小名木川沿い、地区西部の横十間川沿いをつなぐ樹林地エコロジカルネットワークが十分に形成されていないこと、地区の中心部を縦横断する仙台堀川の水辺は直立護岸や暗渠になっており、エコトーンがほとんど見られないことが課題と言えます。

表 3-15 地区の課題：城東南部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものの生息・生育地が荒川河川敷や集合住宅団地、仙台堀川公園等の区立公園のみと限定的です。 ・生物多様性の保全に特化した空間はポケットエコスペース等に限定されています。 ・区内部の河川の溶存酸素量は環境基準を下回っています。
エコロジカルネットワーク ・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・上流域からの連続性を持つ荒川と、地区内の小名木川沿い、横十間川沿いをつなぐ樹林地のエコロジカルネットワークが十分に形成されていません。 ・地区を縦横断する仙台堀川は水辺と緑地が住環境の中で連続していますが、水域が直立護岸や暗渠で形成されており、生きものが生息・生育できるエコトーンはあまり見られません。

③ 地区の将来像

城東南部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

2050 年将来像

荒川沿いの草地在保護され、また区民農園を中心に江戸東京野菜の栽培・利用や歴史・文化等の環境教育の機会が広がっています。

- ・上流域から連続する広大な荒川の緑地と地区内部を縦横に流れる仙台堀川の緑地を中心に、小名木川や横十間川の緑地もつながり、樹林地のエコロジカルネットワークが荒川から地区を囲むように形成しています。区立公園、小学校、集合住宅団地や商業施設等の民間緑地も含めた既存の緑地が維持、多自然化しています。
- ・仙台堀川、小名木川、横十間川は良好な水質が保たれ、水辺が身近にあります。
- ・荒川と仙台堀川のつながりでは、身近にある樹林～草地～水辺環境に親子で自然観察や虫採り、魚釣り等の体験が日常的に行われている他、区内外の誰でも気軽に写真投稿できる区民参加型調査が行われ、江東区のリアルタイムの生態系把握に貢献しています。
- ・区民農園では、農薬の少ない生物多様性に配慮した農法や江戸東京野菜の栽培が普及しており、生物多様性の重要性や区の歴史・文化も学べる場となっています。
- ・大型商業施設では、敷地内緑地の多自然化が進み、生物多様性向上に貢献できる仕組みがあります。
- ・ポケットエコスペースでは、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。また、荒川・砂町水辺公園【砂村】では上流から来る希少種の生息・生育地として保全されています。



荒川河川敷

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

城東南部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-16 城東南部地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの の エ リ ア	横十間川親水公園/仙台堀川公園エリア	(深川北部地区に詳述)	
	荒川・砂町水辺公園河口エリア	(湾岸地区に詳述)	
	仙台堀川公園/ 荒川・砂町水辺 公園エリア	<ul style="list-style-type: none"> 荒川上流から連続する広大な草地と地区内部を縦横に流れる仙台堀川の緑地を中心に、小名木川や横十間川の河川沿いに発達する緑地がつながり、荒川からのネットワークが地区を囲むように形成されています。 荒川の自然から住環境にある仙台堀川公園の身近な自然のつながりを感じながら、樹林～草地～水辺環境に親子で自然観察や虫採り、魚釣り等の体験が日常的に行われています。 誰でも気軽に写真投稿できるデジタル調査が行われ、荒川や江東区のリアルタイムの生態系把握に貢献しています。 	I
			II
			III
大島緑道公園/ 集合住宅エリア	(城東北部地区に詳述)		
みどり・ 生きもの の 動 脈・みち	河川・運河 (荒川・小名木川・横十間川・仙台堀川)	<ul style="list-style-type: none"> 上流と海のつながりを持つ荒川と隅田川をつなげる小名木川、そこから地区内を縦横に連絡する横十間川、仙台堀川が、横断工作物による移動の障害が軽減され、水生生物や水鳥の重要なネットワークとして機能しています。 仙台堀川、小名木川、横十間川の区内部の河川においては良好な水質が保たれており、住環境の中にも自然度の高い水辺環境が身近にあります。 豊かな水辺で釣りや観察等体験の場となっており、水辺の生きもの展示会等荒川にまつわるイベントが開かれています。 国や東京都と連携し、生物多様性だけでなく荒川や小名木川の歴史や防災、親水等の環境学習を実施しています。 	I
			II
			III
みどり・ 生きもの の ス ポ ッ ト	ポケットエコスペース(新砂のぞみ公園、荒川・砂町水辺公園【砂村】、各小学校・幼稚園)	<ul style="list-style-type: none"> 区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。 荒川上流から来る希少種の経路拠点として機能しています。 多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、子どもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。 小学校では地域部活動の一環で小学生による維持管理や観察記録の発信が行われており、学校間で連携しています。 	I
			II
			III
	区民農園 (城東区民農園、砂町区民農園)	<ul style="list-style-type: none"> 農業を減らした栽培等の生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。 江戸東京野菜の栽培が普及しており、種が保全されています。 農業体験や江戸東京野菜の栽培を通じて、生物多様性の重要性や江東区の歴史・文化も学べる場となっています。 	II
			III
	コミュニテイ ガーデン	<ul style="list-style-type: none"> 在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間がまちを彩っています ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。 	II
			III
	江戸東京野菜栽培地(砂町・第五砂町小学校等)	<ul style="list-style-type: none"> 江戸東京野菜の栽培は親子や教師だけでなく、地域住民も身近に体験できるものとして浸透しています。 江戸期から続く区独自の生物多様性の恵みとして、学校教育や来訪者への体験型の普及啓発に広く活用されています。 	II
III			

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-9 城東南部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

5) 南部地区（南部地区西・南部地区東）

① 地区の概況

南部地区は、区の南西部に位置しており、東京湾と隅田川に挟まれ豊洲運河や東雲運河等様々な運河が縦横に流れています。また、まとまった都立公園や高層ビルの緑地、東西旧防波堤の緑地を背景に緑被率は全地区で2番目に高く、樹林地や草地のエコロジカルネットワークを形成しています。更に、ポケットエコスペース等の淡水池、都立水の広場公園の人工磯といった水域と陸域のエコトーンも一部で見られます。

NOVARE や高層マンションでは、事業者が ABINC や JHEP といった緑地認証を取得しており、汐浜・汐見運河/企業緑地エリアでは生物多様性に関する様々な取組があります。

表 3-17 地区の概況：南部地区

項目	地区概況	
	地区別	
緑被率	21.55% (6地区中2番目)	
公園 (児童遊園を含む)	箇所数	53か所 (17.8%)
	面積	148.2ha (28.8%)
ポケットエコスペース	10か所 (19.2%) (区立公園1か所(潮見さざなみ公園)、公共施設1か所(えこっくる江東)、小学校7か所、幼稚園1か所)	
みどり・生きもののエリア	6か所(5大エリア番号) 汐浜・汐見運河/企業緑地エリア、辰巳の森海浜公園/辰巳の森緑道公園エリア、豊洲公園/春海橋公園/豊洲ぐるり公園エリア、有明テニスの森公園エリア、東京臨海広域防災公園エリア、シンボルプロムナード公園エリア	
生きものの主要な生息・生育環境	陸域環境(樹林・草地)	都立辰巳の森海浜公園・都立辰巳の森緑道公園、東西旧防波堤、各高層マンションの認証緑地等
	陸水域複合環境(淡水池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース(淡水池)、都立水の広場公園(磯)、豊洲ぐるり公園(緩傾斜護岸)、NOVARE(淡水池)、武蔵野大学(淡水池)等
	水域環境(河川・運河・海)	東京湾、汐浜運河、汐見運河、豊洲運河、東雲運河、砂町運河等
エコロジカルネットワーク (第2章第3節における解析結果)	樹林地ネットワーク	深川南部地区と地区内の各エリアの樹林地がマンション等緑地や東西旧防波堤を介してつながっています。
	草地ネットワーク	都立公園や豊洲ぐるり公園の延長のある草地が地区内で網羅的につながっています。
	河川ネットワーク	地区の北部は河川が網目状に、地区の南部は大きな運河が地区内を縦横に流れ、隅田川の河口と東京湾をつないでいます。
	淡水池ネットワーク	一部の小学校や幼稚園、武蔵野大学に淡水池があるものの、地区内では限定的であり、他地区と十分につながっていません。
生物多様性の保全や利用、普及啓発の取組	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習情報館えこっくる江東では、環境学習や普及啓発の取組が行われています。 都立辰巳の森緑道公園では、辰巳区民農園がある他、都立シンボルプロムナード公園ではナチュラルスティックガーデンが造られています。 東陽町ぐりんたすでは「人・自然・まち」がつながる空間の創出や、武蔵野大学では造園事業者と連携した環境学習や維持管理が行われています。 NOVARE は ABINC ADVANCE 認証、高層マンションは JHEP や SEGES 等の緑地認証を取得しています。 NOVARE は様々な活動やイベントの場となっています。 	 <p>豊洲ぐるり公園</p>  <p>温故創新の森 NOVARE</p>

② 地区の課題

南部地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

南部地区は、都立公園等のまとまった緑地が多くあるものの、ポケットエコスペースのような陸水複合環境や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的である他、有明や青海のような一部の港湾拠点においては緑地が不足しています。

また、地区は運河が縦横に流れているものの、直立護岸で形成されている箇所が多くあり、磯や干潟等のエコトーンが限定的です。

表 3-18 地区の課題：南部地区

項目	地区の課題
主要な生きものの 生息・生育環境	・本地区は緑被率が高く、まとまった緑地を有する都立公園が数多くありますが、ポケットエコスペースのような淡水池や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的です。
エコロジカル ネットワーク ・エコトーン	・有明四丁目や青海一丁目等、一部の港湾拠点において樹林地が不足しており、樹林地エコロジカルネットワークが途切れている箇所があります。 ・ポケットエコスペースのような淡水池が有明や青海に少ないため、淡水池のエコロジカルネットワークが十分に形成されていません。 ・地区は運河が縦横に流れているものの、直立護岸で形成されている箇所が多くあり、磯や干潟等のエコトーンが限定的です。

③ 地区の将来像

南部地区の概況や課題を踏まえた 2050 年の将来像を以下に示します。

2050 年将来像

臨海副都心に事業者や教育・研究機関、民間団体等の多様な主体が連携した豊かな水と緑の空間や臨海の生息空間が創出されています。

- ・まとまった緑地を有する都立公園を中心に高層マンションや商業施設、工業団地、倉庫等の民間緑地も含め既存の緑地が維持、多自然化しており、生物多様性保全の取組が認証取得や ESG 投資により施設や事業者の価値向上に寄与しています。
- ・東京港の埋立護岸においては、グリーンインフラ・ブルーインフラ（藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物）整備の観点により、海辺における人の利用と生きものの共、触れ合える空間の創出に取り組んでいます。
- ・汐浜・汐見運河/企業緑地エリアでは、企業緑地を拠点とした生物多様性への配慮が浸透しています。また、駅前の立地や利便性を活かして、生物多様性に関する多角的な取組が区内外から集まる人達に向けて、多様な主体と連携して行われています。
- ・ポケットエコスペースやビオトープは、有明や青海にも新たに創出されており、持続的な体制のもと適切な維持管理や定期調査が行われ、湿地性の生息・生育環境が維持・向上しています。
- ・えこっくる江東では、周辺の事業者や民間団体、教育・研究機関等との連携により、様々な世代向けの最先端の環境学習や生物多様性に関する講座が開かれています。



環境学習情報館 えこっくる江東

【出典】江東区ウェブサイト
「環境学習情報館 えこっくる江東」
(<https://www.city.koto.lg.jp/380291/ekokuru/main.html>)

④ みどり・生きもののエリア等の目指すべき方向性

南部地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-19 南部地区：みどり・生きもののエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	汐浜・汐見運 河/企業緑地 エリア	・NOVARE や東陽町ぐりんとす等を拠点に、東陽町駅から汐浜運河、潮見駅から汐見運河につながる良好な緑地が保たれています。	I
		・企業緑地と駅前の立地や利便性を活かして、生物多様性に関する多角的な取組が区内外から集まる多様な人たちに向けて、多様な主体と連携して行われています。	III
	都立公園エ リア (都辰巳の 森緑道公園、 都立水の広 場公園 等)	・植栽の維持管理が定期的に行われています。 ・改修する際には生物多様性に配慮した取組が行われています。	I
		・桜並木や海辺の釣り場等、様々な自然観察や体験があります。 ・広大な緑地を活用した避難場所等防災拠点となっています。	II
みどり・ 生きもの のみち	運河 (汐浜運河、 汐見運河、砂 町運河 等)	・臨海副都心周辺を縦横につなぐ水域のエコロジカルネットワークが水生生物や水鳥の生息環境として機能し、潮見さざなみ公園ポケットエコスペース等海辺の緑地を保全しながら、海域と陸域をつなぐ護岸が形成されています。	I
		・潮風の散歩道等日常の憩いの場や、水槽展示等の東陽・新砂地区ルネサンス協議会等のイベントの場となっています。	II
みどり・ 生きもの のスポッ ト	東西旧防波 堤	・東西旧防波堤は、生物多様性に配慮した維持管理が行われています。	I
	ポケットエ コスペース (潮見さざ なみ公園、え こっくる江 東、各小学 校・幼稚園)	・区と民間団体、小学校・幼稚園が連携・協働し、持続的な体制のもと適切な維持管理、定期調査が行われており、希少種や湿地性の動植物の生息・生育環境が維持・向上しています。	I
		・多様な生きものが見られ自然度の高い身近な空間として、こどもから大人まで楽しめる自然観察の場となっています。	II
		・えこっくる江東では、様々な世代向けの最先端の環境学習や生物多様性に関する講座が開かれています。	III
	区民農園 (辰巳区民 農園)	・農薬を減らした栽培等の生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
		・農業体験を通じて、生物多様性の重要性や江東区における農業の歴史、江戸東京野菜等の食文化も学べる場となっています。	III
	コ ミ ュ ニ ティガーデ ン	・在来種使用等の生物多様性に配慮したガーデン活動が広がり、区民だけでなく来訪者も楽しめる空間がまちを彩っています	II
・ガーデンを活用した環境教育や普及啓発が行われています。		III	
大学や事業 者の緑地(武 蔵野大学、マ ン シ ョ ン 等)	・武蔵野大学では、生物多様性に配慮した緑地の維持管理や保全が行われています。	I	
	・武蔵野大学では学生に向けた環境教育や江東区の生物多様性を取り扱った研究が行われています。また、高層マンションでは敷地内緑地を活用して住民に向けた普及啓発が行われています。	III	

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。



図 3-10 南部地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

6) 湾岸地区

① 地区の概況

湾岸地区は、区の南東部に位置しており、東京湾と荒川に挟まれ砂町運河や砂町南運河等で囲まれている他、新木場には環境省のかおり風景 100 選にも選定された貯木場があります。都立海の森公園等のまとまった緑地を有する都立公園を中心として南北の樹林地・草地のエコロジカルネットワークを形成しています。また、区唯一の干潟である新砂干潟や都立若洲海浜公園の人工磯等、海と陸のエコトーンも見られます。

新砂干潟では、干潟環境の生態系保全のため、民間団体によるモニタリングや自然観察会、国・都・区も連携したごみ清掃が行われています。

表 3-20 地区の概況：湾岸地区

項目	地区概況			
	地区別		区全域	
緑被率	R6 年度 時点	26.67% (6地区中1番目)	21.01%	
公園 (児童遊園を含む)		箇所数	16か所 (5.4%)	298か所
		面積	227.5ha (44.2%)	515.1ha
ポケット エコスペース			1か所 (1.9%) (区立公園1か所 (荒川・砂町水辺公園【下流】))	52か所
みどり・生きもの のエリア		6か所 (5大エリア番号) 荒川・砂町水辺公園河口エリア (②)、若洲海浜公園/若洲公園エリア (⑤)、新木場緑道公園/砂町南運河エリア、暁心頭公園エリア、夢の島公園/夢の島緑道公園エリア、海の森公園エリア	22か所	
生きものの主要な 生息・生育環境	陸域環境 (樹林・草地)	都立夢の島公園、都立夢の島緑道公園、若洲公園、若洲ゴルフリンクス、青海中央心頭公園等		
	陸水域複合環境 (淡水池・干潟・磯・緩傾斜護岸)	ポケットエコスペース、新砂干潟、砂町水再生センター、荒川・砂町水辺公園、都立新木場緑道公園、都立若洲海浜公園、都立海の森公園等		
	水域環境 (河川・運河・海)	東京湾、砂町運河、砂町南運河、曙運河、第一・第二貯木場、新砂貯木場等		
エコロジカル ネットワーク (第2章第3節 における解析 結果)	樹林地 ネットワーク	樹林地及び草地は、荒川・砂町水辺公園河口エリアから若洲海浜公園/若洲公園エリアの南北方向、都立新木場緑道公園から都立辰巳の森緑道公園の東西方向にそれぞれつながっています。		
	草地 ネットワーク			
	河川 ネットワーク			地区の北部は大きな運河が地区内を縦横に流れ、荒川の河口と東京湾をつないでいます。
	淡水池 ネットワーク			砂町水再生センターが重要な拠点となっていますが、地区内外で十分につながっておらず、都立海の森公園が独立しています。
生物多様性の 保全や利用、普 及啓発の取組		<ul style="list-style-type: none"> ・新砂干潟は、国土交通省が干潟再生事業により整備した人工干潟であり、干潟環境の生態系保全のため、民間団体によるモニタリングや自然観察会、国・都・区も連携したごみ清掃が行われています。 ・都立海の森公園は、約60haと江東区で最も大きい樹林地です。「資源循環」と「都民協働」をコンセプトに、東京都がごみ埋立地を整備した公園であり、都民や事業者、民間団体との協働により約24万本が植樹されました。 ・都立若洲海浜公園では、釣り用に整備された人工磯や防波堤があります。 		
			<p>都立海の森公園</p> <p>【出典】海の森公園ウェブサイト「公園概要」 (https://uminomori-park.com/about/)</p>	

② 地区の課題

湾岸地区の概況を踏まえた生物多様性の観点からの課題は以下のとおりです。

湾岸地区は、都立海の森公園をはじめとしてまとまった緑地が多くあるものの、ポケットエコスペースのような淡水池や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的である他、有明や青海の一部の港湾拠点においては緑地が不足しています。

また、新砂干潟や暁心頭公園エリア等、荒川や船舶から外来種が侵入する入口となっており、ナガエツルノゲイトウ（新砂干潟）やヒアリ（暁心頭公園エリア）等特定外来生物が確認されています。

表 3-21 地区の課題：湾岸地区

項目	地区の課題
主要な生きものの生息・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区は緑被率が全地区で最も高く、まとまった緑地を有する都立公園がありますが、ポケットエコスペースが1か所のみであり、淡水池環境や生物多様性の保全・向上を目指した空間が限定的です。 ・荒川との連続性を有する新砂干潟や港湾拠点となっている暁心頭公園エリアは河川や船舶を經由して外来種が侵入する玄関口となっており、ナガエツルノゲイトウ（新砂干潟）やヒアリ（暁心頭公園エリア）等、特定外来生物が確認されています。 ・有明四丁目や青海三・四丁目、若洲一丁目等、物流や倉庫等港湾拠点では、緑被地がほとんどありません。
エコロジカルネットワーク・エコトーン	<ul style="list-style-type: none"> ・都立海の森公園は広大な緑地を有していますが、若洲・青海・有明と海で隔たっており、エコロジカルネットワークが十分に形成されていません。 ・ポケットエコスペースのような淡水池がほとんどないため、淡水池のエコロジカルネットワークが十分に形成されていません。

③ 地区の将来像

湾岸地区の概況や課題を踏まえた2050年の将来像を以下に示します。

2050年将来像

区内唯一の新砂干潟が持続的に広がり、また若洲公園等のみどり・生きものの拠点となるまとまった樹林地が創出されています。

- ・まとまった緑地を有する都立公園を中心に、倉庫や物流施設、工業団地、ゴルフ場等の民間緑地も含め、既存の緑地が維持、多自然化しています。
- ・東京港の埋立護岸においては、グリーン・ブルーインフラ整備の観点により、改修による水辺空間のグリーン化・生物共生化に取り組んでいます。
- ・ポケットエコスペースやビオトープは有明や青海、若洲にも創出されています。
- ・荒川・砂町水辺公園河口エリアでは、国・都・区・民間団体が連携して希少な干潟・湿地の保全や維持管理、調査が継続して行われており、自然観察や環境教育に広く活用されています。また、新砂二・三丁目地区では公園・緑道等整備で生物多様性に配慮されています。
- ・若洲公園では、都立若洲海浜公園との連続性を活かし、生物多様性に配慮した維持管理やゾーニング、体験型環境教育が行われています。
- ・暁心頭公園エリアでは、船舶等からの外来生物侵入に対する水際対策が強化され特定外来生物は確認されおらず、都立海の森公園とのエコロジカルネットワークを形成しています。



新砂干潟

④ みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

湾岸地区にある各エリア等の目指すべき方向性を以下に示します。

表 3-22 湾岸地区：みどり・生きものエリア等の目指すべき方向性

区分	場所・施設	目指すべき方向性	目標※
みどり・ 生きもの のエリア	【5大エリア ②】 荒川・砂町水 辺公園河口エ リア (砂町水再生 センター、新 砂干潟、荒川・ 砂町水辺公園 【下流】等)	・国・都・区・民間団体等が連携した新砂干潟の維持管理や調査が継続して行われており、希少な干潟環境や湿地環境の生態系が保全され、拡大しています。	I
		・新砂二・三丁目地区では公園・緑道等整備で生きものと触れ合える生物多様性に配慮した場が創出されています。	II
		・江戸期には当たり前にあった干潟環境や荒川を通じて流れる河川・海洋ごみ等を題材とした環境教育が行われています。	III
	【5大エリア ⑤】 若洲海浜公園 /若洲公園エ リア、若洲ゴ ルフリンクス	・公園やゴルフ場のまとまった樹林地や草地では生物多様性に配慮した維持管理が行われている他、人工磯から草地、樹林地にかけて海辺の生きものの生息・生育地が保全されています。	I
		・海釣り施設やバーベキュー、ドッグサイト、キャンプ等、海辺～樹林地の環境を活かした自然体験の場となっています。	II
		・様々な海鳥や草地昆虫類が見られるゴルフ場となっています。	III
	新木場緑道公 園/砂町南運 河エリア (都立新木場 緑道公園、貯 木場等)	・南北のネットワークを維持する生物多様性に配慮された緑地や浅瀬を生かした海辺のエコトーンが保全されています。	I
		・貯木場は「木のまち・新木場」として区内外に認知されており、江東区の木材の歴史や生態系の恵みに関する環境教育が行われています。	III
		・都立海の森公園へとつながる緑地ネットワークが充実しています。	I
	暁ふ頭公園エ リア (暁ふ頭公 園、青海南ふ 頭公園等)	・港湾から侵入する特定外来生物の水際対策が実施されており、行政と事業者が連携した外来種対策が行われています。	I
		・日常的な自然観察や散策の場となっています。	II
		・植栽種の維持管理が定期的に行われています。	I
	夢の島公園・ 夢の島緑道公 園エリア	・自然の中でスポーツが行える場として認知されています。	II
		・夢の島熱帯植物館では区と連携し体験型環境教育があります。	III
		・植栽種の維持管理が定期的に行われています。	I
海の森公園エ リア	・広大な樹林地・草地が東京湾や周辺区と江東区をつなぐ広域的な拠点であり、保全活動が行われています。	I	
	・森林体験ツアーや生きもの採集体験が行われています。	II	
	・ごみ問題や埋立地の生態系創出の取組に関する普及啓発や育樹体験等区民に向けた環境教育があります。	III	
みどり・ 生きもの のみち	運河（砂町運河、砂町南運河、曙運河等）	・水生生物や水鳥のネットワークとして機能し、海辺の緑を保全しながら、海域と陸域をつなぐ護岸が形成されています。	I
みどり・ 生きもの のスポッ ト	ポケットエコ スペース（今 後新規創出箇 所）	・事業者の共同出資で有明や青海、若洲に新たなポケットエコスペースやビオトープが創出され、民間団体等との連携で保全されています。	I
		・多様な主体が連携した環境教育に活用されています。	III
	区民農園（夢 の島区民農 園）	・農薬を減らした栽培等の生物多様性に配慮した農業体験が浸透しています。	II
		・農業体験を通じて、生物多様性の重要性や江東区における農業の歴史、江戸東京野菜等の文化も学べる場となっています。	III

※各場所・施設の将来像につながる3つの2030年目標を示します。

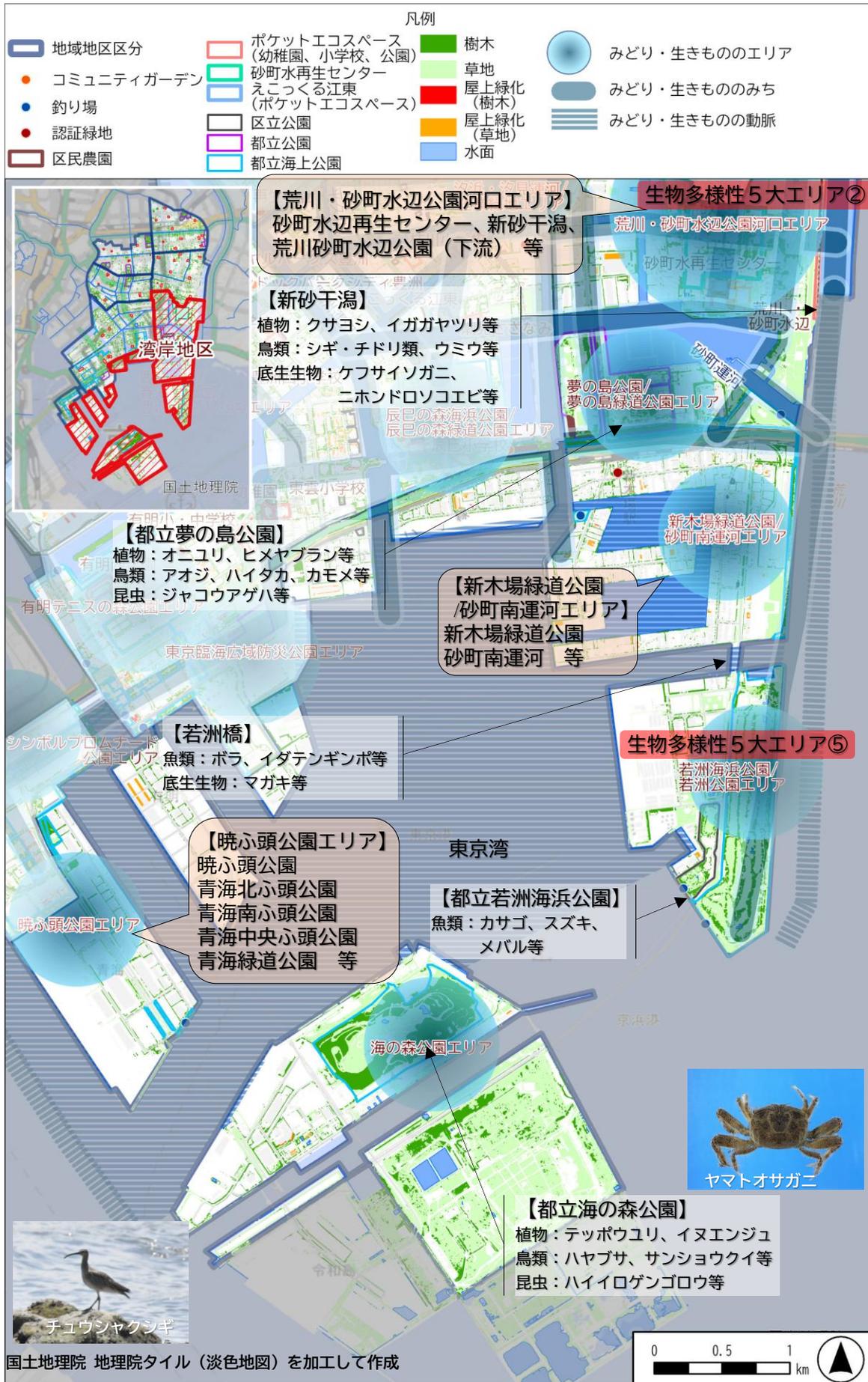


図 3-11 湾岸地区：みどり・生きもののエリア等と今いる生きもの

コラム 水辺のプレイフルインフラ

水辺のプレイフルインフラとは、子どもが遊びを通じて自ら学び、成長できるように設計された水辺空間のことです。従来のインフラ（社会基盤）整備に「遊び」や「学び」の要素を加え、子どもの視点を重視した水辺づくりの考え方として注目されています。

水辺のプレイフルインフラでは、コンクリートで固められた人工的な水辺ではなく、水際に土が見えていたり植物が生育したりしているような自然的な水辺で生きものと触れ合うことにより、子どもたちの生きる力につながる「課題を解決する力」や「創造する力」を効率的に身につけることに役立つことが示されています。

自然体験ができる水辺をつくり、生きものに対する心や生きていく力を育んでいくことも必要です。



【出典】子どもの水辺研究会「子どもが遊びを通じて自ら学ぶ水辺のプレイフルインフラ」
(令和4(2022)年6月、技報堂出版株式会社発行)